

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意⁰

岡本 順治

0 はじめに

ドイツ語の不変化詞動詞(Particle Verbs)¹の1つに前置詞 *an* を組み込んだ一群の動詞がある。その中には、以下の(1)~(3)のように行為の「部分的遂行」²の読みを持つ場合がある。

- (1) Der Chefkoch brät das Steak *an*.
the chef-NOM roast the steak-ACC PARTICLE
'The chef roasts the steak (a little).'
- (2) Die Hasen knabbern die Rüben *an*.
the hare-PL-NOM nibble the carrot-PL-ACC PARTICLE
'The hare nibble at the carrots (a little).'
- (3) Der Professor hat den Aufsatz *angelesen*.
the professor-NOM has the paper-ACC PARTICLE+read-PP
'The professor has read the paper (a little).'

(1)の動詞 *anbraten* は基底動詞が *braten* (= roast), (2)の動詞は, *anknabbern* で基底動詞が *knabbern* (= nibble), (3)の動詞は, *anlesen* で基底動詞が *lesen* (= read) である。(1)~(3)の例では, それぞれ基底動詞の意味に対して, 部分的にしか行為が遂行されなかったことが含意される。すなわち, (1)では, 「ちょっとステーキを焼く」, (2)では, 「ニンジンをちょっとかじる」, (3)では「その論文の最初の部分を読む」の意味になる。この種の AN-不変化詞の語形成は極めて生産的な側面を持つ反面, すべてのケースで同じような「部分的遂行」の意味が生ずるわけではない。本稿では, この「部分的遂行」の含意が AN-不変化詞動詞の4つの基本的タイプと特定の関係を持っていることを示すと共に, どのような制約のもとに成立しているのかを明らかにする。

1 項構造から見た AN-不変化詞動詞の性質: 4つの基本タイプ

基底動詞に AN-不変化詞を付加することで, 基底動詞を使った文とは違った意味構造が作り出され, 項構造も変更されると考えられる。ただしその変更は一様ではなく, 少なくとも4つのタイプが存在する³。以下では, まず, AN-不変化詞付加による語形成の全体像を実例に即して把握しておくことにする。

1.1 タイプI 「身体に付いている状態」

- (4) a. Sie können Ihren Mantel ruhig behalten.
 you can your coat-ACC by-all-means keep
 `You can keep your coat by all means.'
 b. Sie können Ihren Mantel ruhig anbehalten.
 you can your coat-ACC by all means PARTICLE+keep
 `You can keep your coat on by all means.'

(4a)に対する(4b)では、 $[_{VP} V NP_{ACC}]$ の動詞句構造に変更は無く、対格目的語の指示物が身体に接するという意味が付け加わるだけである。このタイプの AN-不変化詞動詞はさほど多くなく *anhaben*(～を身につけている)、*ankleiden*(服を～に着せる)、*anlassen*(～を着たままでいる)、*anlegen*(＜高価でエレガントな服＞を着用する)、*anliegen*(～が身体に合う)、*anprobieren*(～を試着する)、*anschließen*(～が身体にぴったりである)のようなものに限定される。これらのケースでは、副詞用法の *an* が、*an* den Körper (「身体へ付着させて」という到達点を伴う行為の意味か、*am* Körper (「身体に付着して」という状態の意味を持って使われる。(5)における *an* は、述語として *anziehen* (= put on) と同等に使われ「コートを着る」という行為を表すのに対して、(6)の場合 *an* は、状態にも行為にも解釈できる。すなわち、「何も服を着ないで」という行為の解釈と並んで、「何も服を着ない状態で」という場合である。

- (5) Schnell den Mantel *an*!
 fast the coat-ACC PARTICLE
 `Put on the coat!'
 (6) Ohne etwas *an* ging er aus.
 without something-ACC PARTICLE go-PAST he out
 `He went out without anything on.'

「身体に付着する」意味を付加する *an* は、(5) や (6) のように述語的な性質を持つが、*an* 単独で述語用法の形容詞として用いることはできない。(7a)のように「明かりが点灯している」という読みでは独立的述語用法の *an* が容認されるが、(7b)のように「コートが着られている」の意味では不可である。この理由は、*an* が基本的に「接触状態」あるいは、「接触に至る過程」を表しているため、2つの項を必要とし、(7b)のように一項の形容詞のようには使えないからであると考えられる。それに対して、(7a)の「明かりが点灯している」という意味での用法は、「スイッチの接触」を含意するだけで足りるため、一項述語として成立する。⁴

- (7) a. Ich weiß, daß das Licht *an* ist.
 I know that the light PARTICLE is

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

- ‘I know that the light is on.’
b. * Ich weiß, daß der Mantel *an* ist.
I know that the coat PARTICLE is
‘I know that the coat is on.’

さらに、(8)のような様態の補足語を必要とする自動詞があるが、この場合もAN-不変化詞の表しているのは身体への接触であり、(8b)に関しては、*am Hals* (= on the neck)のように身体部位を補うことも可能である。

- (8) a. Das Kleid liegt eng *an*.
the dress lie tight PARTICLE
‘The dress fits tightly.’
b. Der Kragen schließt eng (*am Hals*) *an*.
the collar fits tight (on-the neck-DAT) PARTICLE
‘The collar fits tightly (around the neck).’

1.2 タイプII「ある物がある物に付ける」

第2のタイプでは、名詞からの派生動詞がかなり多く見受けられ、基底動詞と一見して同じ項構造を持つように見える。例えば、(9a)の文に続いてAN-不変化詞を付加すれば、(9b)の文が形成できる。そして、(9a)と(9b)の意味上の明確な違いは、母国語話者の判断に従っても微妙な問題である。

- (9) a. Ich heftete einen Zettel *an* die Tür.
I clip-PAST a note on the door-ACC
‘I clipped a note on the door.’
b. Ich heftete einen Zettel *an* {die/der} Tür *an*.
I clip-PAST a note on the door-ACC/DAT PARTICLE
‘I clipped a note on the door.’

しかし、Ogawa (1998:162ff) も指摘するように、(9b)タイプのAN-前置詞句は対格支配とも与格支配ともなれることから、(9a)の場合とは異なり、前置詞句中の名詞句は動詞から直接格を付与されているとは考えにくい。前置詞句中の名詞が対格の場合、Olsen (1996) で包括的に扱われている同語反復的方向規定詞 (Pleonatische Direktionale, 以下 PD と略) と考えられる。すなわち、(9b)の場合の *an* は、単独ですでに方向を示しており、その内容を補足する形で「*an* + 対格名詞」が使われる。このような前置詞句は一般的に表面に現れない方が普通であり、(9b)の文よりも、(9c)のような前置詞句無しの用法が多いと考えられる。⁵

- (9) c. Ich heftete einen Zettel an.
 I clip-PAST a note PARTICLE
 'I clipped a note (onto somewhere).'

(9b) において *an der Tür* と与格名詞を従える場合は、「クリップで貼り付ける」という行為が行われた場所を示す前置詞句が付加されたものである。この対格・与格交替は、主題関係に置き換えれば、目標(goal)と場所(location)の違いに相当する。このように考えてくると、(9a)での AN-前置詞句は項構造に直接反映されたものであるのに対して、(9b)での AN-前置詞句は格下げされ、背後に隠れた付加詞(Adjunct)となっていると考えるのが自然であろう。⁶ (II) のタイプの AN-不変化詞動詞には、名詞派生の動詞が多く見うけられ(*anketten* Kette <鎖>, *anklammern* Klammer <クリップ>, *anknöpfen* Knopf <ボタン>, *anleinen* Leine <犬の引き綱>, *anleimen* Leim <膠>, *anlöten* Lot <はんだ>, *annageln* Nagel <釘>, *anschrauben* Schraube <ネジ>など), それらは、特定の道具を使ってあるものを固定するという所に主眼の置かれた動詞である。⁷

1.3 タイプ III 「働きかけ」

上記の2つのタイプとは異なり、明らかに違う項構造を作り出すように見えるのが、このタイプであり、典型的には自動詞から他動詞を作り出し、基底動詞の表す活動(Activity)に、働きかけの方向を付与する。⁸ (10a)の *lächeln* (= smile) は、(10b)のように *anlächeln* という不変化詞動詞にすれば、特定の人に向かって「微笑みかける」という意味になり、対格支配となる。⁹ 自動詞 *lächeln* の付加語として *an mich* を補う(10c)は普通ではなく、(10d)のような PD 表現として *anlächeln* と共に使われることもない。この点は、タイプ II の AN-不変化詞動詞とは様相を異にする。

- (10) a. Peter lächelt.
 Peter smile-PRES
 'Peter smiles.'
 b. Peter lächelt mich an.
 Peter smile-PRES me-ACC PARTICLE
 'Peter smiles upon me.'
 c. *Peter lächelt an mich.
 Peter smile-PRES PREP me-ACC
 'Peter smiles upon me.' (意図された意味)
 d. *Peter lächelt an mich an.
 Peter smile-PRES PREP me-ACC PARTICLE
 'Peter smiles upon me.' (意図された意味)

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

この種の動詞は, *bellen* *anbellen* <犬が~に吠え掛かる>, *brüllen* *anbrüllen* (動物が~に吠え掛かる), *fauchen* *anfauchen* (猫が~に向かってフーッと鳴る), *gaffen* *angaffen* (~にぼかんと見とれる), *gähnen* *angähnen* (~に向かってあくびをする), *grinsen* *angrinsen* (~を見ながらにやりと笑う), *hauchen* *anhauchen* (~に息を吹きかける), *husten* *anhusten* (~に面と向かって咳をする), *lachen* *anlachen* (~に笑いかける), *niesen* *anniesen* (~に向かってくしゃみをする), *schmunzeln* *anschmunzeln* (~に向かってにやりとする), *schreien* *anschreien* (~を怒鳴りつける) のようにかなりの数にのぼる。これらの動詞の対格目的語は一樣に, 行為の向けられる対象であると同時に, 目標 (Goal) となっている。

基底動詞が知覚動詞の場合, 他動詞であってももともと他動性が少ないところから, 働きかけの意味を付加するようになる。意図的に注意を向けることから, (11b), (12b) のように与格の再帰代名詞を伴い関与の意味を付加する構造を取る。

- (11) a. Man hat den Täter zuletzt in Hamburg gesehen.
 one-GENERIC has-AUX the criminal-ACC last time in Hamburg see-PP
 `One last saw the criminal in Hamburg.'
 b. Peter hat sich den Täter angesehen.
 Peter has-AUX himself-DAT the criminal-ACC PARTICLE+see-PP
 `Peter has looked at the criminal.'
- (12) a. Hast du den Wecker gehört?
 have-AUX you-NOM the alarm-clock-ACC hear-PP
 Have you heard the alarm clock?
 b. Ich habe mir den Vortrag angehört.
 I have-AUX myself-DAT the lecture-ACC PARTICLE+hear-PP
 `I have listened to the lecture.'

もっともこのように知覚動詞でありながら対格を取る構造は, ドイツ語においては「見える・聞こえる」に限定されるため, 同様の項構造は, *anschauen*, *anblicken*, *angucken* (「(意図的に見ようとして)~を見る」) にしか見られない。¹⁰

1.4 タイプ IV 「開始」

an の付加によりある行為やプロセスの開始が指示されることがある。その際の基底動詞は, 他動詞のこともあれば(13), 自動詞のこと(14)もある。

- (13) a. Anna stimmte {ihre Geige/ *eine schöne Melodie}.
 Anna tune-PAST her violin/ a beautiful melody-ACC
 `Anna tuned her violin/* a beautiful melody.'
 b. Anna stimmte {*ihre Geige/ eine schöne Melodie} *an*.

- Anna tune-PAST her violin-ACC / a beautiful melody-ACC PARTICLE
 `Anna began singing {*her violin/a beautiful melody}.'
- c. Sie haben (über) das Problem diskutiert.
 they have about the problem-ACC discuss-PP
 `They have discussed the problem.'
- d. Sie haben gerade das Problem *and*diskutiert.
 they have just the problem PARTICLE+discuss-PP
 `They have just begun discussing the problem.'
- (14) a. Der Wurst hat/ist geschimmelt.
 the sausage has/is-AUX go-mouldy-PP
 `The sausage went mouldy.'
- b. Der Wurst ist *angeschimmelt*.
 the sausage is-AUX PARTICLE-go-mouldy-PP
 `The sausage began to go mouldy.'

(13a)の *stimmen* (= *tune*) は、「楽器の調律をする」の意味で、歌を歌う意味は無いが、(13b)のように *anstimmen* にすると、「～を歌い始める、(声)をあげ始める」と、開始を含んだ意味を持ように変更される。この変更は、一見すると動詞の厳密下位範疇化の変更でしかないように見えるが、対格目的語に道具(*Instrument*)を従える基底動詞が、AN-不変化詞動詞に変わること、目的語も漸増的主題(*Incremental Theme*)に変わることの意味する。*blasen* (= *blow*) の場合の *anblasen* も同様で、楽器演奏の動詞の場合典型的に見られる現象である。(13c)に対する(13d)は、一方で他動詞化されたように見えるが、(13c)が前置詞 *über* を用いない他動詞形でも成立することから、統語構造が変わったと単純に考えることはできない。

(14a)の *schimmeln* は、名詞派生の自動詞で「かびる」という意味だが、完了の助動詞は、*sein* でも *haben* でも可能である。これに対して、(13b)のように開始を表す *anschimmeln* にすると、完了の助動詞は一義的に *sein* となる。これは、開始相(*Inchoativ*)が、基底動詞の場合とちがって状態変化を明確に示すことから生じている。

「～を始める」という意味の他動詞は、*anfangen*, *antreten* のように十分に抽象化されたアスペクト動詞だけでなく、*andiskutieren*(「～を議論し始める」)、*andrehen*(「撮影を開始する」)、*anfahen*(「～の運転を開始する」)、*anfressen*(「腐食し始める」)、*anrauchen*(「火をつけてたばこを吸い始める」)、*anstimmen*(「～を歌い始める」)のように様々な行為を始めるのに特定化された動詞である。他方、*anschimmeln*(「かび始める」)に完全にパラレルな自動詞は、*anfaulen*(「腐り始める」)、*anrosten*(「さび始める」)、*antrocknen*(「乾き始める」)の類である。¹¹

「開始」を表すこれらの自動詞は、以下で議論する「部分的遂行」の含意に解釈できる場合があることをここで確認しておこう。ある種の基底動詞の場合、開始の

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

意味は「部分的遂行」の含意と表裏一体をなしている。(15a), (16a) では, 開始の意味なのに対して, (15b), (16b) では, 部分的な事態の遂行が表現されている。¹²

- (15) a. Die Tinte trocknet *an*.
the ink dry PARTICLE
`The ink begins to dry.'
b. Die Tinte ist nur *angetrocknet*.
the ink is-AUX only PARTICLE+dry-PP
`The ink has only partially dried.'
- (16) a. Die Äpfel faulen schon *an*.
the apple-PL rot already PARTICLE
`The apples begin to rot already.'
b. Die Äpfel sind nur *angefault*.
the apple-PL are-AUX only PARTICLE+rot-PP
`The apples have only partially rotten.'

2 部分的遂行の AN-不変化詞動詞：基礎データ

ここでは, 辞書やコーパスなどから収集した「部分的遂行」の AN-不変化詞動詞をまとめて提示する。具体的な場所や行為, プロセスと関係したものの他に, 抽象的な行為やプロセスを含む動詞があるが, 抽象的なものを除くと, 全体として「接触動詞」がその中心をなすことが分かる。

接触動詞と思われるもので, 部分的遂行を表すものを以下に示す。

- (a) 破壊動詞
anbeißen, anbrechen, anfressen, anhauen, anknabbern, annagen, anritzen, ansägen, anschneiden, anstechen,
- (b) 接触する行為
anrühren, anstreifen, antippen, anstreichen, anlecken,
- (c) 加工・料理動詞
anbraten, anbräunen, andünsten, anfeuchten, angießen, ankochen, ankohlen, annetzen, anröchern, anrauen, anrösten, anrühren, anschleifen, anschmelzen, anschmoren, anschneiden, ansengen, antauen, antrocknen, anwärmen,
- (d) 行為に付随した移動
anblasen, anheben, anhören, ankippen, anknicken, anlecken, anlehnen, anrücken, anspielen, anstechen, antrinken, anwinkeln,

このリストで分かるように, (a) の破壊動詞と (c) の加工動詞・料理動詞が大きなウエイトを占めている。さらに, 抽象的な変化, 行為を表す動詞としては, 以下のようなものがある。

(e) 自然変化

anrosten, anfaulen, anstauben, antrocknen

(f) 認識¹³

anblättern, anbohren, andeuten, anlernen, anlesen,

(g) その他¹⁴

anmieten, anzahlen,

(e)の自然変化の中で挙げられた *antrocknen* は、(15)で示したような自動詞の例であり、(c)の加工に分類された他動詞とは異なる。(e)の動詞の中では、*anstauben* が唯一、基底動詞が完了の助動詞に *haben* (= have) だけを選択する点¹⁵で、微妙に異なっているが、AN-不変化詞動詞となると、他の3つの動詞と同じように、完了の助動詞は *sein* (= be) となる。

このリストで挙げた動詞は、「部分的遂行」を表す AN-不変化詞動詞を網羅したものではない。Wunderlich (1983: 453) が不変化詞動詞にたいして主張するように、これらの動詞形成は生産的であり、閉じた集合ではない。そこで、いったいどのような制約の元で生産性が発揮されるのかをつきとめねばならない。

3 Stiebels (1996) の仮説

Stiebels (1996) は、(17)のような AN-前置詞句の生起と「部分遂行」の AN-不変化詞動詞の意味を関連付けて説明しようと試みている。

- (17) a. Alex baute ein Haus.
 Alex build-PAST a house-ACC
 'Alex built a house.'
 b. Alex baute an einem Haus.
 Alex build-PAST on a house-DAT
 'Alex was building a house.'

(17b)の構文は、Krifka (1989)、Filip (1989) で扱われているもので、「アレックスは(長時間かけて)家を建てている最中だった。」という意味になる。(17b)は、英語の進行形のように事態の進行を表すので、過去形にしても、「家が最終的に建てられた」ことを含意しない。(17a)が家の建ったことを含意するのに対して、(17b)は、その文の表す過去のどの時点を取っても、「家を建てるという行為」が行われていることになるので、可算・不可算名詞の区別と平行な例として、Krifka (1989: 242)はイベントの「部分性」(Partitivität) という概念で定義している。Filip (1989)は、Krifka (1989) の考えを引き継ぐと共に、有界(telic)な述語だけが(17b)の「AN-進行構文」を許すと主張している。¹⁶

Stiebels (1996) は、Filip (1989)のこの観察を発展させ、「AN-進行構文」と「部分的遂行」を表す AN-不変化詞動詞の基底動詞がたいていの場合一致していると主

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

張する。¹⁷ すなわち、この場合、基底動詞は「漸増的・漸減的主題」(Incremental or Decremental Theme)¹⁸ を取することを前提としており、それによって予定より早い行為の中断の意味を成立させていると考える。(18a), (18c) が「AN-進行構文」で、それに対応すると見なされている AN-不変化詞動詞の例が、(18b), (18d) である。¹⁹

- (18)
- a. Die Maus knabbert *an* dem Apfel.
the mouse nibble on the apple-DAT
`The mouse is nibbling at the apple.`
 - b. Die Maus knabbert den Apfel *an*.
the mouse nibble the apple-ACC PARTICLE
`The mouse nibbles at the apple (a little).`
 - c. Martina und Willi spielen *an* der Haydn-Sonate.
Martina and Willi play on the Haydn sonata-DAT
`Martina and Willi are playing the Haydn sonata.`
 - d. Martina und Willi spielen die Haydn-Sonate *an*.
Martina and Willi play the Haydn sonata-ACC PARTICLE
`Martina and Willi play the Haydn sonata (a little).`

有界な述語が基底動詞でなければならないという制限を仮定することにより、1) 状態動詞、活動動詞 (Activity verbs) が排除され、2) 漸増的主題を持ち得ないものとして瞬間達成動詞 (Achievement verbs) も除外される。Stiebels (1996) は、さらに 3) 有性主語制約もあり、(15), (16) のような反例があるにもかかわらず無生物主語構文が作れないと主張する。

一見してもっともらしいこの仮説も、実はかなりの数のデータで矛盾した結論を導き出す。まず、「AN-進行構文」は可能であっても、AN-不変化詞動詞で「部分的遂行」を表せない動詞が存在する。(19) のように、「あるものを固定する」という意味を持ったタイプ II の動詞がそれに該当する。

- (19)
- a. Peter baute *an* einer Garage.
Peter build-PAST on a garage-DAT
`Peter was building a garage.`
 - b. Peter baute eine Garage *an*.
Peter build-PAST a garage-ACC PARTICLE
`Peter built a garage on (to his house).`
 - c. Paula strickte *an* einem Pullover.
Paula knit-PAST on a pullover-DAT
`Paula was knitting a pullover.`
 - d. Paula strickte einen Pullover *an*.
Paula knit-PAST a pullover-ACC PARTICLE
`Paula made a pullover longer.`

また、逆に AN-不変化詞動詞で「部分的遂行」の意味を持って、(20)のように「AN-進行構文」が作れないものもある。

- (20) a. Peter beißt einen Apfel *an*.
 Peter bite a apple-ACC PARTICLE
 `Peter took a bite of an apple.'
 b. Peter beißt {**an* einem Apfel / in einen Apfel}.
 Peter bite {on a apple-DAT / in a apple}
 `Peter is biting an apple.'
 c. Er las das Buch *an*.
 he read-PAST the book-ACC PARTICLE
 `He read a book.'
 d. Er las {**an* dem Buch / im Buch}.
 He read-PAST on the book-DAT/ in the book-DAT
 `He was reading the book.'
 e. Berta spielte eine Sonate *an*.
 Berta play-PAST a sonata-ACC PARTICLE
 `Berta played a sonata (a little).'
 f. *Berta spielte *an* einer Sonate.
 Berta play-PAST on a sonata-DAT

(20a) の *an*beißen は、「ほんの一口かむ」という「部分的遂行」の意味を持つが、(20b)のように「AN-進行構文」とは共起しない。かむ対象がリンゴならば、通常前置詞は *in* になり、この場合、「進行構文」とは無縁の方向規定詞となってしまう。(20d) の *lesen* (= *read*) の場合、「本を読んでいる最中だった」とするには通常は、前置詞は *an* ではなく *in* が用いられる。Filip (1989: 280) による (20f) の例は、*singen* (= *sing*) と同様に、達成動詞 (accomplishment verbs) の一部で「AN-進行構文」と共起しない例として挙げられている。(20f)の判断は、前述の注でも触れたように、*spielen* (= *play*) の意味と関係するかもしれない。つまり、*am Computer spielen* (「コンピュータで遊ぶ」)なら問題無く「AN-進行構文」として解釈できる。この点で、Stiebels (1996)の(18c)の判断には疑問が残る。AN-前置詞句の中の名詞の定性 (Definiteness) も解釈に影響を与えるという観察もある。²⁰ Filip (1989:26ff) は、同じ *kochen*(=*cook*)という動詞でも、**an Spaghetti kochen* (= *be cooking spaghetti*) は許容できないが、*am Abendessen kochen*(= *be cooking supper*) は許容されるところから、「イベントの境界」(boundaries of the event)が関与していると指摘している。

さらに、Stiebels (1996) で挙げられている *anknabbern*, *annagen* は、基底動詞そのものからして、「少量ずつの摂取の繰り返し」を含意しているため、ここでの議論に含めるには問題があることも指摘しておこう。

4 「部分的遂行」の読みを可能にする制約

まず第1章で見た4つのタイプに基づいて考え直してみよう。いずれの場合も前置詞 *an* が基本的に持つ「接触」の意味を多かれ少なかれ内在しているように思える。完全に接触するのは、タイプ I, II の場合で、タイプ III, IV の場合は「接近」にしか過ぎない。一般的な語彙構造でタイプ I, II を表すと (i) のようになるだろう。

(i) [CAUSE *x*, [BECOME [CONTACT (*y*, *z*)]]]

(i) における *z* は、タイプ I の場合「主語の指示する人間の体」を指すが、タイプ II の場合は、前置詞句の NP となり、これが接触先であり目標(Goal)である。これに対して、タイプ III の場合は、接触することは含意されていないので、方向づけられた働きかけであり、*x* のある行為が *y* という対象を目標としてなされるということになる。(ii)では、その単なる活動(Activity)としての行為を DO, 働きかけ述語を ACT-ON で表した。

(ii) [ACT-ON[DO(*x*), *y*]]

(ii) における *y* は被害者(Patient)であると同時に目標(Goal)であり、ACT-ON は、「*x* は、*y* に向けてある行為をする」という拡張タイプの行為である。これに対して、タイプ IV の開始は、ある物が接触に至る部分が焦点化され、典型的には「ある人がある行為を始める」という構造に読み替えられる。この読み替え構造を単純に表せば、(iii)のようになる。

(iii) [BECOME[CONTACT(*y*, *z*)] [INCHO [Verb(*y*, *z*)]]

自動詞タイプの「開始」の意味は、(iii)の *y* が表に現れない場合で、*z* が表層の主語となる非対格構造であると仮定できる。なぜなら、完了形の助動詞選択が基底動詞の場合 *haben* が可能なにもかかわらず、AN-不変化詞動詞となって *sein* に変わり、状態変化を示すからである。このように違った意味構造を仮定する根拠は、第一章でも見たように、付着先が明示されてしまうと、「部分的遂行」の意味も生じないという事実観察に基づいている。ここまでの議論を整理して、仮説の形でまとめると次のようになる。

仮説：

(H-1) AN-不変化詞動詞の意味は、

(i) [CAUSE *x*, [BECOME [CONTACT (*y*, *z*)]]] の構造において、*z* が明示される場合は、*z* は PD として AN-前置詞句の形で具現化する。

(ii) 付着点が明示されない場合は、(1) 主語の指示対象の人間の身体か、(2) 「話し手」が仮定される。付着点が明示されず、(1)でも(2)でもない場合は、

(3) 働きかけ行為か, (4) 行為開始の意味が読み込まれる.

仮説 (H-1) の「付着点が明示されない場合」について 1 つ補足しておく. 付着点が明示されない場合で話し手が仮定される場合というのは, (21a) のような一群の固定表現の存在にある.

- (21)
- a. Peter kommt *angelaufen*.
Peter come PARTICLE+run-PP
'Peter comes running.'
 - b. *Peter ist *angelaufen*.
Peter is-AUX PARTICLE+run-PP
 - c. *Peter ist *angelaufen* gekommen.
Peter is-AUX PARTICLE+run-PP come-PP

angelaufen は, *anlaufen* の過去分詞で, ある方向への「接近」を表すが, (21b) のように現在完了形にただけではどこへ向かっているのかを表せない. また(21a) が(21c) のような形で通常の完了形を作れない所から, この場合の *kommen* (=come) は, むしろ完了の助動詞の代わりをしていると考えられる. そこで, 「話し手」の方に向かって移動することを表す動詞 *kommen* を補うことによって始めてこのタイプの表現が成立する. *angelaufen kommen* (「走ってやって来る」) の型は, 移動様態動詞の過去分詞を常に伴うので, 様態部分には, 「馬に乗って」(*angeritten*), 「車に乗って」(*angefahren*), 「飛行機に乗って」(*angeflogen*), 「行進して」(*anmarschiert*), 「轟音をたてて」(*angedonnert*), 「カヌーをこいで」(*angepaddelt*), 「転がって」(*angerollt*), 「ぶらりと」(*angeschoben*), 「忍び寄るように」(*angeschlichen*) などが使われる.

それでは, 「部分的遂行」の読みはどのようにこの仮説 (H-1) に組み込まれるのだろうか? 第一章で暗示したように, 「部分的遂行」の意味は, 「開始」の意味と密接な関係がある. 動詞で示された行為が開始されてから, その行為が完結しない場合, 「部分的遂行」の意味が生ずると考えられる. すなわち, 次の関係が仮定できる.

仮説:

(H-2) 「部分的遂行」の意味は,

基底動詞がプロセスを表し, かつ「開始」の意味が読み込める条件がそろった時に成立する. その際, 対格目的語は, 単なる行為の向けられた対象ではなく, 被害者(Patient)の意味役割を持ち, 行為による影響を多かれ少なかれ受けることを前提とする.²¹

新しい造語としてこの条件を満たすものとして, 例えば *anklicken* がある. 基底動詞としては, *klicken* が自動詞で「カシャッという音を立てる」という意味でしか

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

ないが、AN-不変化詞動詞とすることで他動詞化し、「～をマウスでクリックする」という意味になったと考えることもできるが、英語の *click* を名詞のまま取り込み *Klick* とし、そこから *klicken* *anklicken* と動詞化したとも考えられる。「クリックすることによってアプリケーションをスタートさせる」という意味では開始の意味を含み、同時に「ちょっとした行為・動作」という意味合いも持つ。可能な動詞として予測されるものの中には、Stiebels (1996: 81) で挙げているような *antauen* (=「～をちょっと解凍する」) の他にも、*anbasteln* (=「～をちょっと組み立てる」), *anfrittieren* (=「～をちょっと油で揚げる」) のような加工動詞が考えられる。

また多くの場合、「開始」の意味と「部分的遂行」の意味は1つの AN-不変化詞動詞に共存しており、(22a)のようにしばしばどちらの意味が決定できない事態が生ずる。

- (22) a. Er hat ein Lied angeblasen.
 he has-AUX a song PARTICLE+blow-PP
 `He has blowed a song a bit. or He has begun blowing a song.'

その際、「部分性」は3つの次元で概念的に捉えられる。第一に、全体の行為持続時間の一部(22b)、第二に、全体の行為の一部、すなわち、低い程度の行為(22c)、第三に行為の対象物の一部分(22d)の解釈ができるが、これも相対的に決まってくるので単純に決め付けることはできない。例えば、時間的に短いならば、*nur kurz* (= only for a short time)、動作の程度ならば *leicht* (= lightly) のような副詞句を補うことで曖昧性を排除することができる。

- (22) b. Die Spargel sollen (nur kurz) angekocht werden.
 the asparagus should (only short) PARTICLE+COOK-PP PASSIVE-AUX
 `The asparagus should be cooked only for a short time.'
- c. Er hat einen Ton (leicht) angeblasen.
 He has-AUX a tone (lightly) PARTICLE+blow-PP
 `He has played a tone very slightly.'
- d. Sie hat den Kuchen angeschnitten.
 she has-AUX the cake PARTICLE+cut-PP
 `She has cut the first slice of cake.'

日本語の複合表現「V+かける」でも同じような事態が観察されるが、「焦げかける」ということは、「もうすでに一部焼けている」ことを含意する。これは、時間の継続とともに変化するものを観察すれば、当然の意味関係といえるだろう。AN-不変化詞動詞で開始を表すものは、過去分詞化して付加語的形容詞として使っても、この部分性の含意が中心的に解釈される。

- (23) a. *angeschimmelt*es Brot (ちょっとかびたパン)

- b. ein *angekohltes* Brett (少し焼けこげた板)
- c. eine *angebrochene* Dose Mais (開けられたトウモロコシの缶詰)
- d. eine *angetrunkene* Flasche (栓を抜いたビン)

(23a), (23b)は、非対格動詞の *anschimmeln*, *ankohlen* が使われているので、完了の意味となり、「一部分かびてしまったパン」, 「一部焦げてしまった板」を指す。(23c), (23d) は、受動の意味で「開けられた」+「始まる」なので「もうあいていて使いかけの缶詰」あるいは、「もう栓を抜いてしまった飲みかけのビン」となる。この場合も当然、一部分が消費されているのだから、「部分的遂行」という解釈ができる。

5. まとめ

本稿では、AN-不変化詞動詞の「部分的遂行」の含意が付着点としての前置詞句を伴わない「開始」の意味構造から導かれることを示した。その際、基底動詞はプロセスタイプの意味を持ち、AN-不変化詞動詞に転換することで「働きかけ」述語の特性も併せ持つようになり、対格名詞は主題、あるいは被害者の役割を持つことを主張した。Stiebels (1996)は、基底動詞+AN-前置詞句との関係からそのメカニズムを説明しようとしているが、このやり方では多くの例外を許してしまう。その点、「付着」の意味構造を除外し、「部分的遂行」の含意に課せられた制約から説明する方が「開始」の意味と「部分的遂行」の意味の平行関係を率直に捉えることができる。AN-不変化詞動詞の抱える意味構造は、認知的に見れば、おそらく1つであり、どの局面に焦点を当てるかということにすぎない。以下の図1から図4までが、本来一体化していて、構文上の制約、および発話場面内の語用論的制約からどれか1つが取出されるのだと考えることができる。図1のケースは、純粋に接触している状態で、該当する動詞は、*anhaben*, *anlassen*, *anliegen*, *anschließen* で数は少ない。

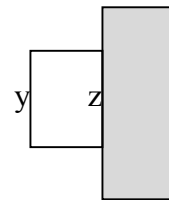


図1 y が z に接している。z = 身体 の場合
CONTACT(y, z)

それに対して、図2の場合は、着用を表す *anprobieren*, *anziehen* を始め、付着を表すタイプIIの動詞群も当てはまる。

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

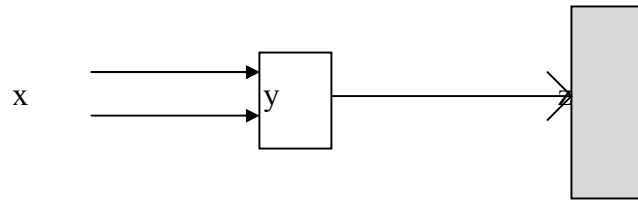


図2 y が z と接触するようになる。
[CAUSE x, [BECOME[CONTACT(y, z)]]]

図3がタイプ III に対応する「働きかけ」の場合で、働きかける主体は通常人間の行為である。つまり、ある行為をして、それが z に向かって接近していく過程を表している。X lächelt Y an. のような文があった場合、x がある行為を y に対して行い、その結果はおそらく z となるのだろうが、z は非焦点化され語用論的にしか含意されない。

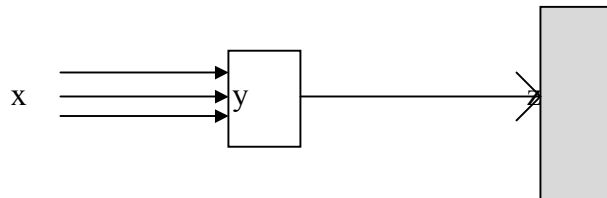


図3 x が何らかの行為をして、それが y に働きかける。
[ACT-ON [DO(x), y]]

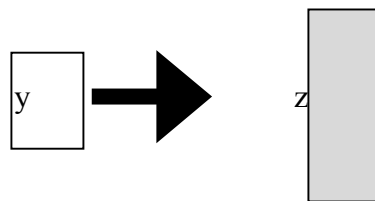


図4 y の z への接触へ至る変化の始まる所に焦点が置かれる。
[BECOME [CONTACT(y, z)] => [INCHO [Verb(y, z)]]

図4では「開始」の局面が焦点化されている。²² あるプロセス型の行為は、z という被害者(Patient)に対してなされ、y は最終局面に向かって接近して行く。開始まもなくの状態を切断して見れば、それは部分的にすでに物事が成されたことを含意しているはずである。この見方こそ、本稿で扱った「部分的遂行」の含意である。この点では、日本語の補助動詞「～つける」、「～かける」が極めて近い構造を作り出すと思われるが、それは今後の課題としたい。

注

0) 本稿は、文部省科学研究費基盤研究(B)「ドイツ語の統語構造と意味構造のインターフェースに関する通時的・共時的研究」(研究代表者:福本義憲, 課題番号 08301044), 及び、文部省科学研究費基盤研究(A)(2)「レキシコンに関する総合的研究」(代表者:原口庄輔, 課題番号 07401015)の助成の元に行われた研究成果の一部である。インフォーマントとして特に協力をおしななかった Angelika Werner, Walter Rupprechter 各氏には、この場を借りて特に感謝したい。

1) 不変化詞動詞 (Particle verbs)とは、従来からの学校文法における分離動詞におおむね対応し、接辞動詞 (Prefix verbs)が非分離動詞に対応する。Duden 文法では、本稿で呼ぶ不変化詞動詞を「半接辞動詞」(Halbpräfixverben)と呼ぶが、言語学的には接辞とは別のステータスを持つことは、平叙文現在形、及び命令文では分離し、接辞としての性格を持たないことから明らかである。

2) 従来からの用語として部分相 (Partitiv), Stiebels (1996:78) の用語として「部分的マーキング」(Partialmarkierung)があるが、ここでは敢えて行為やプロセスとの関係を明確にするために「部分的遂行」という用語を用いる。

3) 包括的な AN-不変化詞動詞の分類は、Kühnhold (1973), Fleischer (1983), Stiebels (1996)に見られる。

4) この独立性の強い *an* は、「スイッチが入っている」状態を指し、基底動詞 *machen* (= do) などと組み合わせることで「スイッチを入れる」という意味になる。この場合は、*an* が結果状態である結果構文として分析すべきであろう。

5) *steigen* vs. *aussteigen*, *steigen* vs. *einsteigen* に関して、Okamoto (1996)に簡単な調査が示されている。それによれば、*Ich steige aus dem Bus aus.* のように PD をともなった不変化詞動詞の用法は、使用頻度が極めて少なく、*Ich steige aus dem Bus.* が普通である。近年の、コーパス言語学でもこの観察は裏付けられつつある。

6) Bierwisch (1983), Bierwisch/Lang (1986), Wunderlich (1987) らの二段階意味論 (Two-Level Semantics) では、不変化詞動詞の PD は、対格名詞を取り、意味形式 (Semantic Form) にあらかじめ存在する項として扱われる。言い換えれば、統語的には付加語でありながら、意味的な項として初めから認知されているという考え方が取られている。このアプローチで行けば、与格名詞を伴う前置詞句は PD ではなく、意味的にも後から関数合成される付加語とされ、対格・与格交替の現象自体の説明はできないように思える。詳しくは Okamoto (1999)を参照。

7) 綿密にデータを調べると、AN-不変化詞動詞で「貼り付ける」行為を表すものの中には、PD の内部に対格の名詞句しか取らないものが存在する。*anbauen*, *andrücken*, *anknüpfen*, *anhängen*, *ankuppeln*, *anmalen*, *anreihen*, *anschleichen*, *anzeichnen* がその例であり、与格・対格交替を示す動詞が限定されていることが分かる。ここでは敢えてこの区別には踏み込まないが、他動詞 *befestigen* (「~を固定する」) が与格を取り、*knüpfen* (「~を結び付ける」) が対格をそれぞれ前置詞 AN の後ろに置かれることと関係があるかもしれない。

- 8) 「働きかけ」という概念は、Pinker (1989: 104)にすでにみられ、*X acts-on Y*が動能交替(Conative Alternation)を説明するのに使われている。
- 9) 「働きかけ」が自分のために行われるという解釈が与格再帰代名詞により可能になる。Bill hat sich Monika *angelacht*. (「ビルは自分自身のためにモニカに対して笑いかけた」は、慣用句的表現で「ビルはモニカといい仲になった」の意味になる。一般に、このようなケースの与格は獲得の意味を担っていると考えられ、*sich einen Bauch anfressen* (「食べ過ぎて腹が出た」)のように被害と結びついて解釈される場合もある。詳しくは、Ogawa (198: 164) 参照。
- 10) 「見える・聞こえる」系統以外の知覚動詞の中で、*spüren* (触れて感じる)が他動詞構造を取ることができるが、*anspüren* では、「意図的に触れて感じる」の意味では使わず、Duden によれば「感じ取る、気づく」の意味で使われる雅語である。また、*schmecken*(味がする)、*riechen*(匂う)、*stinken*(臭いにおいがする)の類は、能格構文を取るため、主語が「味のする対象・匂う対象」となり、単純に *an* を付加して行為者の働きかけの意味を表すような動詞は形成できない。*anstinken* のみは比喩的に可能で、*Diese Arbeit stinkt mich an*. のように使い、「この仕事は臭って私に働きかける」、つまり「この仕事で私は不快な思いをしている」の意味となる。
- 11) ここでは意味分類の細分化を目的とするわけではないので、開始の意味を付加するその他のグループ、すなわち「開始の合図をする」*anläuten*, *anpfeifen*, 「シーズン開始を示す」*anreiten*, *ansegeln*, 自動詞として使って、特定のスポーツやゲームを始めることを示す *anziehen*, *angeben*, *anspielen* などを区別しない。なお、Duden によれば、*anhauen* も「(木)を切り始める」の意味で開始を表すとの記述があるが、筆者の調べた限りにおいて、この用法を認めるネイティブスピーカーはいなかった。
- 12) 「開始」と「部分的遂行」は、現在時制と現在完了の区別と対応しているという反論がある。しかし、ただ単にある行為を始めたことが、その行為を「部分的に遂行した」ことを含意するわけではない。例えば、「泳ぎ始めた」と言っても、それは「少し泳いだ」ことを言語的に含意しない。実世界に即して推論した場合は、「少しは泳いだらう」と考えられるが、これは問題点をすり替えているにすぎない。詳しくは、四章を参照。
- 13) 認識に分類した動詞には、*anbohren*(「探りを入れる」)や *andeuten*(「暗示する」)のように「部分的含意」に当然関係すると思われても扱い上はっきりしないものも含めてある。
- 14) *anmieten* は、「短期間賃借りする」、*anzahlen* は、「<小額>を頭金として払う」の意味で、「部分的遂行」の意味が含まれている。
- 15) *stauben* は、名詞 *Staub* (ほこり)から派生された動詞で、*Die Decken haben sehr gestaubt*. (それらの毛布はたくさんのほこりをまき散らした。)のように完了の助動詞が *haben* となる例外的な語形成と考えられる。
- 16) Filip (1989: 265)は、有界(*telic*)を内在的な語彙特性として *Aktionsart* 上での抽象と捉え、完了・非完了相を区別している。
- 17) Stiebels (1996:78)は、基底動詞 + AN-前置詞句の形で純粋な「進行相」の場合と、「進行相」+「空間的關係」を表す場合があり、後者は、動能構文(*Conative*

Construction)と対応するとして *anbohren*, *anhauen*, *anknabbern*, *anlecken*, *annagen* が例として挙げているが、これらの動詞の基底動詞は、*anhauen* を除き、V+NP[acc] と V+[pp *an* NP]の交替現象を示すが、「試みられた行為」(attempted action)としての含意の差ではない。むしろ、1.3 で指摘した AN-不変化詞動詞の「働きかけ」構造の方が、動能構文としての性格を有すると考えられる。ドイツ語の動能構文に関しては、岡本 et al (1998)を参照。

18) Incremental Theme は、Dowty (1991)から受け継がれたもので、典型的には状態変化動詞と作成動詞の目的語が行為の進行に伴って増加・減少することを指す。

19) Stiebels (1996: 78)からの例文だが、(18d)は全く問題なく「部分的遂行」の意味で解釈できるのに対して、(18c)の容認性は下がる。動詞 *spielen* (=play) が、楽器の演奏の意味ではなく、「遊ぶ」の意味で捉えられれば容認できるとするインフォーマントもいる。「AN-進行構文」では、「長時間かけて苦労して作り出す」という読みが生ずる場合が多く、*komponieren* + *an-PP*, *malen* + *an-PP* のようなケースでは、前置詞句内の名詞が産出物になる。この点で、(18c)のように「ハイドンのソナタ」が作り出されると考えるのは考えにくい。

20) Filip (1989: 282) には、「AN-進行構文」に対する母国語話者の判断のゆれが挙げられている。(**an* einem Hemd bügeln (= be ironing a shirt), (**an* einem Hemd waschen (= be washing a shirt), (**am* Boden schrubben (= be scrubbing a floor), (**am* Haar kämmen (= be combing the hair) が(**am* Buch lesen (= be reading the book) と共にゆれの大きい例として指摘されている。

21) この仮説は、語彙構造レベルの成立条件であり、実際には語用論的条件が加味されねば十分なものとはならない。また、AN-不変化詞動詞には、明らかに歴史的变化の中で慣用化された意味を持つ動詞があることも否定できない。*anfangen* が、*fangen* (= catch) を基底動詞として作られ、現在、もっぱら「始める、始まる」の意味として使われるのもその1つの例である。

22) 不変化詞動詞は、その多くが有界性を持つため、開始局面に関する EIN-不変化詞動詞や AUF-不変化詞動詞もそれぞれ特徴のある開始局面の記述をするのに使われる。例えば、EIN-不変化詞動詞には「馴らし~をする」(初めて~をしばらくの間する)に当る意味があり、Lindemann (1998: 125-129)にその分析がある。

参考文献

- Bierwisch, Manfred. 1983. Semantische und konzeptuelle Repräsentation lexikalischer Einheiten. *Untersuchungen zur Semantik*, eds. Rudolf Růžicka and Wolfgang Motsch, 61- 99. Berlin: Akademie Verlag.
- Bierwisch, Manfred and Ewald Lang, eds. 1989. *Dimensional adjectives: Grammatical structure and conceptual interpretation*. Berlin: Springer Verlag.
- Dowty, David. 1991. Thematic proto-roles and arguments selection. *Language* 67: 547-619.

AN-不変化詞動詞に見られる部分的遂行の含意

- Fehlisch, Ulrike. 1998. Zur Einordnung denominaler *ein-* Verben im deutschen Verbsystem. In *Semantische und konzeptuelle Aspekte der Partikelverbbildung mit ein-*, ed. Susan Olsen, 149-247. Tübingen: Stauffenburg Verlag.
- Filip, Hanna. 1989. Aspectual Properties of the AN-Construction in German. *Tempus - Modus - Aspekt: Die lexikalischen und grammatischen Formen in den germanischen Sprache*, eds. Werner Abraham and Theo Janssen, 259-292. Tübingen: Niemeyer.
- Fleischer, Wolfgang. 1983. *Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache*. Leipzig: Bibliographisches Institut.
- Krifka, Manfred. 1989. Nominalreferenz, Zeitkonstitution, Aspekt, Aktionsart: Eine semantische Erklärung ihrer Interaktion. In *Tempus - Modus - Aspekt: Die lexikalischen und grammatischen Formen in den germanischen Sprache*, eds. Werner Abraham and Theo Janssen, 227-258. Tübingen: Niemeyer.
- Kühnhold, Ingeborg. 1973. *Deutsche Wortbildung. Erster Hauptteil: Das Verb*. Düsseldorf: Schwann.
- Lindemann, Robert. 1998. Bedeutungserweiterungen als systematische Prozesse im System der Partikelverben mit *ein-*. In *Semantische und konzeptuelle Aspekte der Partikelverbbildung mit ein-*, ed. Susan Olsen, 105-148. Tübingen: Stauffenburg Verlag.
- Ogawa, Akio. 1998. Zur Syntax und Semantik von Partikelverben. *Deutsche Sprache* 2: 160-173.
- Okamoto, Junji. 1996. Hypothese ueber kognitive Bedeutungsstrukturen und ihre Anwendung auf den Fremdsprachenunterricht: Wie kann man mehrdeutige Verben effektiver lernen? I. *IDV-Regionaltagung Asien Beijing 94: Deutsch in und für Asien*. 332-340.
- 岡本順治, 佐々木勲人, 中本武志, 橋本修, 鷲尾龍一 1998. 「打撃・接触動詞の動能交替と結果の含意」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書』173-192.
- Okamoto, Junji. 1999. AN-Verb Constructions in German in view of Compositionality. *Report of the Special Research Project for the Typological Investigation of Languages and Cultures of the East and West at University of Tsukuba*. (forthcoming)
- Olsen, Susan. 1996. Pleonatische Direktionale. In *Wenn die Semantik arbeitet*, eds. G. Harras and M. Bierwisch, 303-329. Tübingen: Niemeyer.
- Pinker, Steven. 1989. *Learnability and Cognition: The Acquisition of Argument Structure*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Stiebels, Barbara. 1996. *Lexikalische Argumente und Adjunkte: Zum semantischen Beitrag von verbalen Präfixen und Partikeln*. Berlin: Akademie-Verlag.
- Wunderlich, Dieter. 1987. An investigation of lexical composition: the case of German *be-*verbs. *Linguistics* 25: 283-331.
- Wunderlich, Dieter. 1993. On the Compositionality of German Prefix Verbs. In *Meaning, Use and Interpretation of Language*, eds. R. Bäuerle/Ch. Schwarze/A. von Stechow, 452-465. Berlin: Walter de Gruyter.

Wunderlich, Dieter. 1997. Cause and the Structure of Verbs. *Linguistic Inquiry* 28: 27-68.